

特集 **内陸アジア**  
彩り際立つフロンティア



JICAキルギス事務所  
カザフスタンフィールドオフィス  
村山満穂(むらやま・みつお)さん(右)

内陸アジアを初めて訪れたのは青年海外協力隊員としてモンゴルで活動したとき。その後JICA東・中央アジア部でモンゴルを担当し、2017年4月からカザフスタンフィールドオフィスに勤める。



街路樹も凍りつく冬のヌルスルタン。



円借款で建設されたイルティシウ川にかかる橋。

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

内陸アジアの料理は、世界各地に出張経験のあるJICAスタッフたちによれば「日本人の口に合う」そうです。お米もあり、スパイスよりも出汁に近い味つけが多いせいでしょいか。遊牧民の国も多いので、羊肉や馬肉も一般的に食べられます。寒そうなイメージがあるかもしれませんが、カザフスタンでは室内は暖かく、真冬でもTシャツ1枚で過ごせますのでご心配なく。



JICAの元研修員(中央)と現地スタッフ。



フィールドオフィスの現地スタッフ。2016年度のタジキスタンでの同窓会にて。



カザフスタンのトウズバイル塩湖。



カスピ海沿岸の街、アクtau



JICA東・中央アジア部  
田中祐真(たなか・ゆうま)さん

外務省の在外公館専門調査員としてカザフスタンの日本大使館に3年間勤務。2020年4月からJICA東・中央アジア部で、タジキスタンとトルクメニスタン、ウズベキスタンの一部担当。



「5本の指」を意味するカザフ料理の代表、ベシバルマック。



お祝いの席で振る舞われるヒツジの頭のれ煮!

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

カザフスタンは、訪れたら新しい発見があるはず。治安がよく、また文化としてもなしが好きで、とても人々が暖かい国です。街も清潔で過ごしやすいといわれますね。ちなみに首都のヌルスルタンは、日本の建築家である故・黒川紀章氏の都市計画案に基づいて開発されています。

遠くて近い国々の魅力

JICAスタッフが語る内陸アジア

内陸アジアに関わり、現地の文化や課題を肌で知る3人が、地域の魅力やこれからの日本との関係を語る。

中から見た内陸アジア

**上原**…内陸アジアは日本人の多くにとっては遠く、まだまだなじみがない国々でしょうね。  
**村山**…具体的なイメージが湧かないことや、もしかすると独裁政権の国が多くて怖そうな感じがすることも日本人にとってはとっつきにくい理由の一つかもしれません。この地域は国名に「スタ」とつくところが多いんです。それを聞いて世界の人々は紛争が多い国を連想するのか、「治安が悪いところだよな」なんて言われてしまっ。 **田中**…実は現地の人もちもけつこう気にしているんですよ。キルギスはまさにキルギスタンから国名を変えましたよね。カザフスタンでも過去にはけつこう真面目に議論されて、「カザフ国」に変えるという案もあったとか。  
**村山**…カザフスタンは特に、すごく治安がいいんですけどね。親日的な国が多い地域でもあります。  
**上原**…この地域には日本センターもたくさんあって、そこで日本語を学んだという人も多そうですね。  
**村山**…もちろん東南アジアと比べれば少ないですけどね。ちなみにモンゴルは人口およそ330万人と絶対数は少ないですが、日本語を勉強している国民の割合で言うと世界でもトップクラスなんですよ。

地域の課題と向き合う

**田中**…カザフスタンでは、もともと日本人とカザフ人は先祖が一緒なんだと現地の方はよく言います。バイカル湖のあたりに、ある民族がいて、魚が好きで人たちは東の海を渡って日本にたどり着き、お肉が好きで人たちは西へ渡ってカザフ人になったという話がけつこう信じられていんですよ。キルギスやモンゴルでもどうやら一緒らしいですね。ちなみに私は非常にカザフ人顔のようで、現地では確実にカザフ人だと思われて、「なんでカザフ人なのにカザフ語が話せないんだ!」と怒られたこともありますが……それぐらい、日本人と顔立ちが近いわけです。  
**上原**…カザフスタンは長年の課題として、資源依存型の経済から脱却して持続的な経済成長をするために、産業の多角化を目指しています。それには中小企業の振興が重要となっており、たとえば「カイゼン」の専門家を派遣するなどの協力をJICAが行ってきた。内陸アジアの国々の中では発展が目覚ましく、私がフィールドオフィスに勤務していたときには、カザフスタンが地域の他の国にODAなどで協力していきたくて、KazAIDというカザフ版のJICAのようなODA実施機

関が活動を進めていく予定です。  
**村山**…地域に話を広げると、実はこのあたりは資源が採れる場所がほかにもありますが、開発が追いついていません。もつと資源を生かせればと思う国もありますね。もちろん資源開発の次のステップには、カザフスタンと同じように多角化の必要性があるのですが。  
**上原**…地域全体の課題なら、ほかには物流でしょうか。内陸アジアの名称のとおり海がないので国内でどう物流を発展させていくかは経済面でも重要になってきます。物資を適切に運搬するコールドチェーンの整備と、物の保管技術や管理などの人材育成が、地域全体で求められている分野なのかなと思います。  
**田中**…カザフスタンの場合は内海ですがカスピ海があつて、現在は港を整備しているんですよ。カスピ海を通過してトルコ、そして欧州へ輸送するルートとして期待されています。また内陸アジアの国々は若者が多いのですが、人口そのものは少ない。これも地域的な課題です。その点で今注目されているのがウズベキスタンで、ここは域内では珍しく人口密度の高い国です。商売が非常に上手な人たちとしても知られています。  
**村山**…域内でも注目されていますよね。ただ、カーリーモフ前大統領によって鎖国状態にあつたので、

これからのつながりかた

カザフスタンと比べると閉ざされている部分が多い。現在はミルジヨーフ大統領のもとで開かれつつありますが、今のペースを見ているともう少し時間がかかるのかなというのが私の実感です。  
**上原**…キルギスでは最近、日本語のできる人が日本で観光分野の仕事に就いたり、あとは介護の現場で活躍されたりしています。介護を受ける側が、外国人の職員さんに緊張してしまうというケースがあるのですが、田中さんの話にもあつたように、内陸アジアの人は日本人と顔が似ているのでわりと

すんなりなじむのだとか。そのようにビジネスの場面でも、今後もつと交流が増えてくるのではないかなと個人的には期待しています。  
**村山**…カザフスタンは国内の格差はまだまだ大きいですが、JICAが協力をしている国の中でも所得が高い国です。従来のODAと並行して、民間企業も巻き込んだビジネス交流をしたいという相談はカザフスタン側からもあつて、民間連携事業のようなメニューをうまく使って、この地域に対して協力を継続することが今後ますます必要になってくるのかなと思います。すでに関連の研

修も開始されていますが、このような協力をさらに拡充し人材交流を活発にできたらいいですね。  
**田中**…ソ連崩壊後から長年続けてきたJICAを含む日本政府の協力によって、さまざまな分野でつながりの「芽」が今まさに育ちつつあります。カザフスタンにいたころ、一般の方でも「うちの地元の橋を造ってくれたのは日本人だよ、ありがとう」なんて言ってくれることがありました。地元にも根差すつながりはこれから大事にしたいですね。今後の発展と足並みをそろえながら、継続的な協力関係を維持していきたいと思っています。

\*2 日本の品質管理、生産性向上のための手法の総称。  
\*3 カザフスタン共和国外務省管轄下の組織として設立されたODA実施機関。  
\*4 野菜などの鮮度を保つため、冷蔵庫や冷庫で保管・輸送する仕組み。



カザフスタンの首都ヌルスルタンの街並み。

タジキスタンの現地の少女。

キルギスのスキー場

草原が美しい夏のキルギス。

『mundi』読者に伝えたい、内陸アジアの魅力

多民族国家のカザフスタンやキルギスでは、外国人ということ意識しないで暮らせるのが個人的にはとても魅力的でした。からっとしている気候も、日本の高温多湿な夏が苦手な人には過ごしやすいですよ。キルギスの場合、美しい自然のほかにスポーツやレジャーなどのサービスが安価なのも特徴です。



JICAキルギス事務所  
上原牧子(うえはら・まきこ)さん(中央)

JICAの開発調査団のロシア語通訳としてカザフスタンを訪問したことが内陸アジアとの出会い。2014年4月から17年4月までキルギス事務所カザフスタンフィールドオフィスに勤務。